

一般社団法人

京都野球協会 40周年記念誌

Kyoto Baseball Association 40th Anniversary Magazine



2020

40th Anniversary

野球の健全なる普及発展を図る



一般社団法人京都野球協会
会長 佐々 嘉孝

創立40周年を迎えて

京都野球協会はおかげさまで本年創立40周年を迎えることができました。これもひとえに平素より当協会の活動にご理解・ご賛同くださる皆様と、創立より京都野球協会発展の為に尽力くださった諸先輩方のおかげと心より感謝申し上げます。ここに40周年の歴史の歩みを集大成する記念誌を発行できますことを大変嬉しく思っております。また本年2月21日には40周年記念事業として星稜高等学校野球部の山下智茂名誉監督をお迎えしてご講演をいただきました。当日は椅子をご用意できない方が出るほど、予想を超える多くの方々にご来場いただき大盛況でした。山下名誉監督の講演内容は弊誌にも掲載させていただきましたので、ご一読いただければ幸いです。

当協会は創立以来これまで、多くの諸先輩方の多大なご尽力と野球を愛する想いにより歴史を刻んで参りました。各野球団体とも協力させていただき、活動の幅を広げることができており、機関誌「野球人京都」「会報」の発行、京都野球殿堂への顕彰、ジャイアンツカップ京滋予選の主催、京都野球祭の開催、野球教室の開催等多くの活動を行っております。

近年、残念ながら野球人口の減少が指摘されており、京都の学童軟式野球選手権大会の参加人口を見ても平成21年には6,230名の参加がありましたが、令和元年には3,083名まで激減しており、野球界全体で野球の普及を考えなくてはならない状況に陥っております。

40周年を節目として、今後はこの40年の歴史を大切にしながら、学童野球から古希野球まで幅広い世代がこれまで以上に野球を生涯スポーツとして楽しみながら健康であり続けられるように、野球を通じた地域振興に力を注いでいきたいと存じます。

弊誌の発刊に向けて準備を始めた折から、新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻になり、野球をはじめ全てのスポーツ活動が縮小・中止されております。一刻も早く収束しこれまで通りスポーツを楽しめる日常が戻ることを願っております。

最後になりますが、京都野球協会に関わる全ての皆様に心より感謝の意を表すと共に今後とも益々のご支援とご協力をお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。



京都府知事
西脇 隆俊

祝 辞 「創立40周年によせて」

一般社団法人京都野球協会が、創立から40年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、「京都野球審判協会」を母体に、京都の野球をこよなく愛する方々の強い意志によりまして、昭和55年3月4日に創立され、以来、長きにわたり野球に欠かすことのできない審判の技術の向上に御尽力いただくとともに、少年野球教室や各種大会の開催、京都野球殿堂の顕彰など、幅広い活動により京都府内における野球の普及・発展に多大なる御貢献をいただいていたところであり、佐々嘉孝会長をはじめ、歴代の協会関係者の皆様の御熱意と御努力に対し、深く敬意を表します。

京都府では、令和元年10月に京都府総合計画を策定し、人生100年時代を見据えた「府民躍動きょうとチャレンジ」を掲げ、スポーツ活動や交流の場づくりを進めることにより、府民の誰もが生きがいを感じることでできる共生社会の実現を目指しているところです。貴協会が展開されている野球教室や審判員・指導者講習会、大会の開催は、まさに府民が身近に野球というスポーツに触れ、続けていく機会の提供であり、本府が目指す共生社会の実現に近づくものと期待を寄せる次第です。

また、世界的な生涯スポーツの祭典であるワールド・マスターズ・ゲームズ2021関西では、神戸市で硬式野球が、滋賀県守山市・東近江市で軟式野球が開催されます。貴協会関係者も多くの方々が、選手として、また役員・審判として御参加いただけることと存じますが、日本のみならず、各国から多くの方々が集うこの機会に野球の魅力を一層広く伝えていただきますよう期待しております。

皆様には、これまで培われてこられました豊富な経験と実績を活かしていただき、今後とも、京都府のスポーツ振興並びに生涯スポーツ社会の実現に向けて、なお一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人京都野球協会がこの創立40周年を契機に、更なる御発展を遂げられますことを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。



京都市長
門川 大作

祝 辞

一般社団法人京都野球協会が創立40周年の節目を迎えられましたことを心より
お祝い申し上げます。

少年野球教室の開催や審判員の技術指導、機関誌「野球人京都」の発刊など、京
都における野球の健全なる普及発展のため、多彩なお取組を重ねてこられた、佐々
嘉孝会長をはじめ京都野球協会の皆様に心から敬意と感謝の意を表します。

貴協会では、創立30周年の折、京都の野球界の発展に御尽力された方々を顕彰
する「京都野球殿堂」を創設されました。衣笠祥雄氏をはじめとする野球界で活躍
された方々の功績を称えることを通して、先人への憧れを醸成し、野球を愛する多
くの青少年の健全育成に繋げていただいております。この取組は本市が実施する
「京都スポーツの殿堂」表彰制度とも軌を一にするものであり、大変心強い限りです。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、世界中で困難な状況が続いてい
ます。しかし、日本が、そして世界が一丸となって必ずやこの危機を克服し、心置
きなく野球が楽しめる平穏な生活を一日でも早く取り戻す。そんな強い決意で、本
市も力を尽くしております。

来年に開催が延期された「東京オリンピック・パラリンピック」では、3大会ぶ
りに野球が追加種目となり、世界中で野球が改めて注目されます。

そして来年は、世界最大の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ関
西ジャパン」も開かれます。概ね30歳以上であればどなたでも参加でき、野球も
熱い戦いが予想されます。京都野球協会の皆様におかれましても、ぜひ御参加いた
だければ幸いです。

本市ではこれらの大規模国際大会を契機に、野球をはじめ市民の皆様のスポーツ
の更なる振興につなげてまいります。

今後とも、野球を通じて、京都のまちを元気にしていただいている貴協会の皆様と
共に、スポーツの絆が生きるまちづくりに全力を尽くしてまいります。引き続き、
皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、この度の節目を機に京都野球協会がますます発展されますこと、並びに
会員の皆様の御健勝、御多幸を心から祈念いたします。

京都野球協会創立の経緯

京都の野球界の発展を願い、審判員を中心として、1955(昭和30)年に「京都野球審判協会」が創立された。その活動としては、審判員の育成、高等学校・大学・社会人の野球大会に審判員を派遣するなど、京都の野球界に一定の貢献をしてきた。

その後、審判員だけでなく、野球界のOBをはじめ、広く野球を愛する人達をも募り、それら野球人の親睦団体として、また、京都の野球界の発展に寄与することを目的に、「京都野球審判協会」を発展的に解散し、新たに、1980(昭和55)年3月4日に「京都野球協会」が創立された。従来の審判員の育成及び派遣事業に加え、野球を志す少年を対象に、野球教室や野球大会を開催するなど、活動範囲を広げていった。

更に、協会組織を強固なものにするために、また、活動範囲を広げ、より一層の京都野球界の発展を願い、2015(平成27)年、「一般社団法人京都野球協会」として、法人化を実現した。新しい事業として京都野球殿堂、硬式野球入門教室を実施するなどして、現在に至っている。

沿革

- | | |
|-------------|---|
| 1980(昭和55)年 | ・ 京都野球協会創立(3月4日)
初代会長に森下弘氏が就任、初代理事長に村斎英一氏が就任 |
| 1981(昭和56)年 | ・ 機関誌「野球人京都」創刊号を発刊(5月23日)
・ 京都野球協会のシンボルマーク策定 |
| 1985(昭和60)年 | ・ 定時総会において、二代目理事長に富田仁義雄氏が就任 |
| 1988(昭和63)年 | ・ 西京極球場にグラウンド整備車を寄贈
・ 第1回学童野球フェスティバルを西京極球場で開催 |
| 1991(平成 3)年 | ・ 創立10周年記念定時総会開催(4月9日・からすま京都ホテル)
・ 同総会において、二代目会長に阿萬英昭氏(当時、日本新薬株式会社社長)が就任 |
| 1995(平成 7)年 | ・ 創立15周年記念事業として第1回京都野球祭を西京極球場において開催 |
| 1997(平成 9)年 | ・ 定時総会において、三代目会長に小林祥一氏が就任、三代目理事長に竹中清二氏が就任 |
| 2000(平成12)年 | ・ 創立20周年記念定時総会開催(3月6日・ホテルグランヴィア京都) |
| 2010(平成22)年 | ・ 創立30周年記念定時総会開催(3月9日・ホテルグランヴィア京都)
・ 創立30周年記念事業として京都野球殿堂委員会が発足 |
| 2012(平成24)年 | ・ 西京極球場の管理業務を受託(2015年管理業務契約終了) |
| 2013(平成25)年 | ・ 定時総会(3月7日・全日空ホテル)において、四代目会長に乾康之助氏が就任、
四代目理事長に原田守光氏が就任 |
| 2014(平成26)年 | ・ 京都野球殿堂第1回顕彰楯除幕式の開催(6月21日西京極球場)
・ 機関紙「会報」創刊号を発刊(5月25日) |

-
- 2015(平成27)年
- ・ 京都野球協会の一般社団法人化
 - ・ 京都野球協会のホームページ開設
 - ・ 第1回硬式野球入門教室を開催(9月～12月西京極球場等)
-
- 2017(平成29)年
- ・ 定時総会において、五代目の代表理事・会長に佐々嘉孝氏が就任
-
- 2019(令和元)年
- ・ 衣笠祥雄旗争奪第1回全京滋中学硬式野球大会を主催開催
-
- 2020(令和2)年
- ・ 創立40周年記念定時総会開催(2月21日・都ホテル京都八条)
 - ・ 記念事業として星稜高等学校野球部名誉監督 山下智茂氏による記念講演を開催
- 現在に至る
-

一般社団法人京都野球協会 創立40周年記念総会

2020(令和2)年2月21日 於 都ホテル京都八条



一般社団法人京都野球協会
令和二年度 創立40周年記念総会



創立40周年記念講演

講演者：山下智茂氏
(星稜高等学校野球部名誉監督)

演 題：高校野球から学んだ人生



1. 出会いに感謝

人生は99%の出会いと1%の運だと思います。
良い人との出会いが人を磨き育ててくれる、良い
人の話を聞き、良い本を読み、良いものを見て体
験したことが人生を変えていきます。

私の最大の出会いは両親です。

父は

- ・世のため人のためになる人間になれ
- ・神様、仏様、先祖を大事に
- ・家は貧しくても心は貧しくなるな

と言って私を育ててくれました。

母は

私が大学卒業前、既に父は亡くなっていて母が42歳
の時でした。早朝から出かけていくので何をしている
のかと後をつけると天秤棒を担いで魚の行商をし
ていました。この母の凛として毅然とした後姿を見
て、こんな苦勞をして私の学費を稼いでくれていた
のかと思いました。この時に私は「背中でひっぱる
教師、監督になろう」と決意しました。

監督に就任した当時から一人で早朝のグラウン
ド整備、冬は雪かきをしていたら何も言わないの
に生徒も手伝ってくれるようになりました。昔母
が起きていた時間4時45分に私は今も起きています。
当時からスカウト活動はしていません。公立高校
の受験に失敗した子、星稜で野球をやりたい子達
と8名でスタートしました。

就任2年目に初の遠征で京都へ。夜汽車で通路に
新聞紙を敷いて、パンと牛乳の朝食で試合をし、

泊るところはお寺（東本願寺）でした。現在の遠
征とは雲泥の差ですね。自分の着ている服にも甲
子園、甲子園と書いた紙をはりつけ、それ以降も
京都への遠征を続け、鍛えられ、とうとう5年目に
甲子園初出場を果たしました。京都の高校野球との
出会いが現在の星稜高校の原点だと思っています。

2. 監督に必要なこと

監督に必要なことは

選手を

・見つける ・育てる ・生かす ことです。

見つけるためには観察力が必要であり、育てる
ためには時間がかかりますが、自信を持たせ見通
しを立てさせることが必要であり、生かすため
には対話、心のキャッチボールが 必要です。その
ために私は生徒に「話す」、「書く」、「読む」こと
を指導しました。話すことは3分間スピーチ、書く
ことは野球日誌、読むことは本や新聞等を読み博
学になることをさせました。野球と学問（勉強）の
両立が本分であると。

指導者は日本一マナーのいいチームでの日本一
を目標にして指導、練習させることが重要です。
ある年、行き先を教えず夜にバスを走らせ遠征に
出たことがあります。早朝生徒達はまだ夢の中、
バスを停めて「皆起きろ！！あれが日本一の富士
山だ。やる以上はあれを目指すのだ。日本一は皆
知っていても2番目は知られないぞ」と。センバツ
で優勝したチームに勝つことを目標にして夏まで

の練習に励みました。

また私の愛読書である中国の古典「貞観政要」に基づき人の顔（笑顔・表情）についても勉強しました。なぜなら箕島の尾藤さんが後1人で負ける状況の中でもベンチで笑っているのを試合後のビデオで見たからです。また指導者は野球の歴史（イギリスからアメリカにわたり147年前に日本の東京大学に入ってきた）、ルール（サッカーのルールは17しかないが、野球は2000もある）を知らなければならない。

社会人野球を経験していた明徳の馬淵さんだからあの作戦（ランナーがいなくても松井に5連続敬遠）ができたのでしょう。この20球に対して松井は全て構えをきちっとしてタイミングもとっていた。実績に加えてこの野球に対する姿勢を見て秋のドラフトで巨人（長嶋さん）は1位指名を決めたと聞いています。

3.生徒に教えたこと

まず生徒に教えたことは挨拶をきちんとすることです。人の第一印象は最初の6秒で決まる大事なことであり礼は人をつくる。挨拶は相手の目を見て大きな声ではきはきとすること、簡単なこと小さいことを大切にしていこうと。

何事も基礎と基本が大切で野球で言えばキャッチボールです。キャッチボールに人生がある。

- ・相手の胸元にボールを投げることは相手への思いやりである
- ・暴投したら相手に謝り、ボールを自分でとりに行くことはマナーであり1つの野球のルールである
- ・ボールが当たり痛いと感じるのは危険認識を養うことである
- ・相手にナイスボールと言うのは相手を尊重することである



【山下智茂氏 略歴】

星稜高等学校教諭、同校野球部元監督、
（財）日本高等学校野球連盟技術・振興委員副委員長、
同連盟 評議員、選抜高等学校野球大会選考委員

又指導者に叱られて

- ・帰ってしまうのは四流
- ・不貞腐れるのは三流
- ・下を向くのは二流
- ・「ありがとうございます」と言えるのが一流選手であること

「ありがとう」という言葉はパワーのある言葉である。

一流の者は言われなくてもやる（全体の20%）

二流は言われたらやる（全体の60%）

三流は言われてもやらない(20%)

そして超一流は世界に通じる者で、英語ができなければならない。授業で教えたサッカーの本田も超一流だがサッカーと野球の文化の違いか松井とはいろいろの点で異なるところがある。

本気で一生懸命な人は威張らない、自慢しない、人の悪口を言わない人である。

4.今の指導者に

38年間で甲子園へは春・夏通算25回出場しましたが、監督をして思ったことは「ロマンと我慢、プレッシャーと孤独」です。好きなことを全て棄てて甲子園を目指したが、その分家族、特に妻にはずいぶん迷惑をかけました。甲子園はいいところですよ。人を大きくしてくれます。星稜が出場する時日本一の入場行進を人がいないところで見えています。涙が流れてくるからです。

箕島に延長18回サヨナラで負けた時の勝負の厳しさ、これはおやじの厳しさですが、負けたチームにかけてくれる「又来いよー」は母の優しさ、甲子園が持っている厳しさ！と優しさ！です。今の若い指導者は情熱はあるが愛が不足していると思う。「情熱と愛」がなければ人は育たない。そして栄光は一瞬ですが努力は永遠です。甲子園はいつでも待っています。

【主な戦績】

- ・甲子園大会 春・夏通算25回出場 準優勝：1回
- ・国民体育大会 7回出場 優勝：1回、準優勝：1回
- ・明治神宮大会 6回出場 優勝：2回、準優勝：1回

回 想



京都府高等学校野球連盟 顧問
京都野球協会 顧問

新造 彰

「京都野球協会」設立の裏ばなし

毎年、夏に開催される全国高等学校野球選手権大会京都大会の審判員の決定は、連盟理事長の水見一雄先生の依頼で太田嘉兵衛氏（立命館大学野球部監督）を長として選考委員会が設立され、決定されてきたのである。私も大学を卒業し教師としてスタートしたが、早速その夏（昭和29年）から、大会審判員として任命され協力することになった。

時は経って、昭和42年に母校の西京高校教諭（野球部長兼監督）に転進した私は高野連連盟理事に選出、昭和47年水見一雄先生の高野連理事長退任、後任の林太郎先生（同志社）を助けて副理事長に、昭和52年には林理事長勇退の後を受け新理事長に就いた。（以後12年間）

昭和55年「夏の高校野球大会」の審判員決定の会が南座の前の「菊水」で開かれた時、勿論審判員は決定されたが、この際京都での社会人、大学、高校野球をまとめた「京都野球協会」というものを結成した方がよいのではないかという発言があり、全員異議なしの声で、ここに「京都野球協会」が設立される運びとなり、会長に森下弘氏（日本新薬社長）、副会長小林祥一氏（京都商工会議所理事）が就任。幹事長に富田仁義雄氏が就任された。

社会人野球、高校野球はスムーズに協力をしたが大学野球は同立（同志社大と立命館大）が対立することが少々あったけれど、富田氏の努力で収まり、野球人の親睦も深まり、皆一団となって京都球界の発展に尽くす前向きの姿勢で取り組むようになった。

「協会設立に協力をいただいた人」

社会人野球 … 富田仁義雄・村斎 英一

高 野 連 … 水見 一雄・新造 彰

大 学 … 竹中 清二・奥村 久嗣・古川 昌美・苗村 治男・國松 豊

主な主催事業

機関誌発刊

1. 野球人京都

昭和56年創刊号発刊、当協会の情報誌として発刊された。平成26年度から、掲載内容を変更、京都の学童野球を始め、中学校・高等学校・大学・社会人は古希に至るそれぞれの戦績等活動を、広く京都の野球人に広報することを目的に発刊。



2. 会報

当協会会員相互の情報誌として、平成26年度創刊号を発刊。



少年野球教室

小学校上級生を対象として平成22年から実施、日本新薬硬式野球部の選手が指導者として共催。本年度、17の少年野球チーム・242名の男女が参加した。

学童野球フェスティバル

昭和63年から開催。本年度は33回の開催。京都の少年野球チームの参加を得てトーナメント戦を実施。決勝戦は、わかさスタジアム京都（西京極球場）京都野球祭で行われる。

硬式野球 入門教室

平成26年度から実施。中学の軟式野球経験者が、高校へ進学し、軟式ボールから硬式ボールに移行する際「怪我」や「故障」をしないで、よりスムーズに移行できるよう指導する教室。8月～11月に掛けて10回実施する。



京都野球祭

平成7年度から実施。本年度は第25回目、京都の野球の聖地、わかさスタジアム京都で開催する。学童野球、中学校野球、500歳野球のそれぞれの決勝戦を行う。

ジャイアンツカップ 京滋予選

令和元年度から新規事業として、衣笠祥雄旗争奪全京滋中学硬式野球大会を主催して行う。



京都野球殿堂

当協会30周年記念事業の一環として、平成26年度から実施。京都の野球界の発展に尽力された「京都ゆかり」の方々を顕彰し、その功績を記した楯（パネル）をわかさスタジアム京都（西京極球場）に展示し広く周知を図る。



京都野球殿堂 顕彰者一覧



2014年
澤村 栄治



2014年
市岡 忠男



2014年
五十嵐 義臣



2014年
太田 嘉兵衛



2014年
中澤 良夫



2014年
氷見 一雄



2014年
森下 弘



2015年
中尾 碩志



2015年
川村 善之



2015年
高山 義三



2016年
金田 正泰



2016年
中谷 信夫



2016年
西村 進一



2016年
富樫 淳



2016年
鈴鹿 栄



2017年
清水 茂



2017年
竹中 清二



2018年
衣笠 祥雄



2019年
岡本 伊三美



2019年
富田 仁義雄

歴代会長・理事長

歴 代	会 長（在任期間）	理 事 長（在任期間）
初 代	森下 弘 昭和55年～平成3年	村斎 英一 昭和55年～昭和60年
二 代	阿萬 英昭 平成3年～平成9年	富田仁義雄 昭和60年～平成9年
三 代	小林 祥一 平成9年～平成25年	竹中 清二 平成9年～平成25年
四 代	乾 康之助 平成25年～平成28年	原田 守光 平成25年～現在に至る
五 代	佐々 嘉孝 平成29年～現在に至る	

役員名簿

名 誉 顧 問 / 梶本 頼兼	山田 啓二	門川 大作	小林 祥一	西脇 隆俊
顧 問 / 繁 隆夫	新造 彰	奥村 功	川村 正	木村 長和 川崎 昭治
	中村 俊孝	西村 泰治	尾田 吉弘	
参 与 / 北本 重二	足立禮四郎	國松 豊		
会 長 / 佐々 嘉孝				
副 会 長 / 樺木 寛				
専務理事(理事長) / 原田 守光				
常 務 理 事 / 森永 芳樹	井田 保則	松本 友夫	木下 幸典	
理 事 / 片山 寄世史	奥野 正彦	池田 盛造	袋布 幸信	田中 弘一 梅井 勝彦
	村上 光男	宮本 隆祉	徳岡 五男	行待 敏博 石井 幸男 佛円 清太郎
	矢木 昭男	進藤 俊正	藤岡 重樹	岡本 善治
監 事 / 池田 満	溝口 潔			

編集後記

今年は、京都野球協会にとって創立40周年の記念の年、その今年は、東京オリンピックが開催される歴史的な記念の年になるはずであった。ところが、中国武漢で発生した新型コロナウイルスが世界中に広がり、東京オリンピックまでも一年延期されることになった。このことは、世界中のアスリートをはじめ、その活躍を期待する人々にとって、この先何十年経過しても忘れられない「年」になるのだろう。我々京都野球協会にとってもまた同じように忘れられない「年」であるのだろう。

令和2年6月吉日 原田守光

